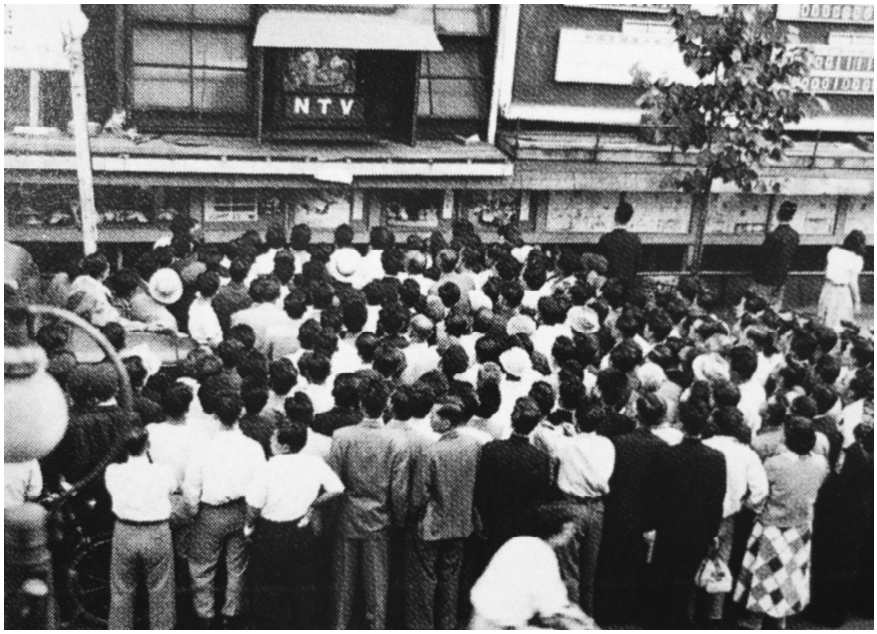
テレビ放送開始70年の記憶(1)

ー 街頭テレビでプロレスに熱狂 ー

■街頭テレビとは

街頭テレビとは1953(昭和28)年のテレビ放送開始にあたりテレビの魅力を伝え、聴視者増を目的として街中の公園、駅前広場などに設置されたテレビ放映施設である。テレビ受像機は高さ3～4mの位置に設置され、管理者が電源のON/OFF、チャンネル操作を行った。

放映番組では特にプロレス中継が大人気で多くの人が街頭テレビに集まり力道山の試合に熱狂した。近年のパブリックビューイングは街頭テレビの現代版と言える。



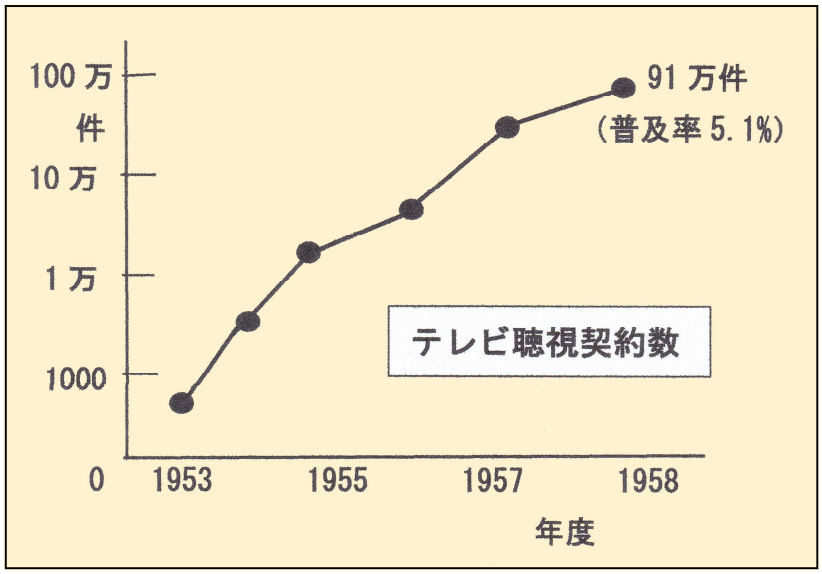
［写真1］有楽町、読売新聞社前の街頭テレビ　出典：『昭和の時代』

■テレビ放送開始時のようす

日本のテレビ放送は1953(昭和28)年2月1日東京のNHKから始まった。放送開始時の視聴契約はたった866件と極端に少なかった、5年後の1958年度末でも約91万件(普及率5.1%)と低迷した(下図)。

テレビの一般家庭への普及が進まなかった大きな理由は、テレビセットが大変高価だったことによる。国産初のテレビは1953年1月に販売開始したシャープの14インチ卓上型(写真2)の価格は17万5千円であった。当時の高卒初任給　5,400円から見ると月給の32か月分と一般家庭では手が届かない価格であり、購入者は事業所、レストラン、ホテルなどに限られた。

［写真2］国産初のシャープ第１号テレビ
（シャープミュージアム蔵）



［図1］全国テレビ受信契約の推移
出典：『放送50年史（資料編）』

家庭でテレビを持たない人々は街頭テレビに集まりプロレス、野球、相撲中継を楽しんだ。

（渡辺治男）